

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	小規模共生ホームひらすま児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	～		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	令和6年10月18日 ～ 令和6年11月8日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢や障がいに関わらず色々な人が利用し、一人一人に寄り添った支援、個別対応をしている	外出の機会や交流の場を持ち余暇活動を通して、いろいろな年代の方と楽しく過ごせるように支援している。自然な日常生活の流れを大切にしている。	自分から要望が言える人だけでなく、様々な人のニーズの把握に努める。スタッフ間での情報共有やコミュニケーションを積極的に行い、より良い支援を行うムード作りをする。臨機応変に対応する。
2	朝の打ち合わせを行い、職員全員で情報共有を行っている	話し合った事は、スタッフ間ノートやカルテに記録して共有している。スタッフ間ノートを読み、ヒヤリハットや個別の支援内容について確認を行っている。	業務リーダーが主となって、スタッフ間の連携を強化する。「報連相」の意識を高める。
3	年間行事やひらすま新聞を通して地域とのつながりを持っている	感謝祭やもちつきなどのイベントを地域住民や他事業所も巻き込んで実施している。また、その内容をひらすま新聞にのせて回覧している。地域の方への挨拶をかかさず行っている。	一部の人の写真が中心となっているため、地域の方と関わっている様子など様々な写真を撮り、発信していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員によって支援のやり方がバラバラで共通認識が不十分なことが多い	カルテを見返しても、細かい内容について記入漏れがある。スタッフ間ノートに様々な利用者の情報が書いてあり見にくい。	カルテやスタッフ間ノートに気付いた点、他の事業所の情報を共通認識できるように記録を残すようにする。
2	保護者との関係が薄く、児童の特性理解が難しいケースがある	送迎時に会うことはあるが、ゆっくりと腰を落として話す機会がない。送迎に来られる方が主介護者でない場合がある。	保護者からの情報があれば、スタッフ間ノートに必ず記入するなどして、スタッフ間で情報共有できるよう徹底する。
3	スタッフが少なく、業務に追われて利用者への対応が不十分になる時間帯がある	個別対応が必要な児童の支援を行っている。掃除などの雑用をする時間と児童の来所時間が被っている。	早め早めの行動を心掛ける。個別対応が必要な児童に対して常時マンツーマンで対応するのではなく、児童の様子に応じて見守りや他の利用者との活動に切り替えるなどし、上手く対応できたことはスタッフ間で情報共有する。